

# 就職活動における自己分析支援アプリほかの開発

団体名 ● 村上専門ゼミナール3年 / 代表者名 ● 村上統朗 (経済学部経営学科・教授)

## はじめに(背景・目的・目標)

本プロジェクトは、株式会社イー・トライアド様(石川県金沢市)との連携により、現代の就職活動における学生の負担を軽減し、より精度の高いマッチングを実現する支援ツールの開発を目的としました。多くの学生が「自己分析」や「エントリーシート(ES)作成」において、自身の強みを言語化することに苦戦しています。

本活動では、Z世代ならではの視点とIT技術を融合させ、就活生の「ガクチカ」作成や自己理解を支援する具体的なソリューションを提案することを目標に掲げました。

## 活動内容

アプリのコンセプト立案にあたり、以下のプロセスで検討を進めました。

課題の深掘り：就活生へのヒアリングを通じ、自己分析が「点(単発の作業)」になってしまい、一貫性のある自己PRに繋がっていない現状を特定しました。  
解決策の策定：生成AI(ChatGPT等)を活用した、対話形式の自己分析支援機能を検討しました。

主な機能案の設計：

- ①ガクチカ自動生成・添削機能：自身の経験を箇条書きで入力すると、企業の求める人物像に合わせた適切な文章に構成・変換する機能。
- ②逆算型キャリアパス提示：なりたい姿から逆算して、今すべきアクションを可視化する機能。
- ③マッチング精度向上：過去の合格ESデータや企業の特徴を学習し、ユーザーとの親和性を数値化する仕組みの検討。

## 成果、結果の考察

活動を通じて、単なる便利なツールの開発にとどまらず、学生が自身の経験を客観的に捉え直す「リフレクション(内省)」の機会をいかにデジタルで提供できるかという視点を得ることができました。

考察として、就職活動におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)は、効率化だけでなく、学生の「自信」や「納得感」といった心理的側面に訴求することが重要であると学びました。また、AIが生成した文章に依存しすぎず、いかに「自分らしさ」を残すかというバランス調整が、サービス開発におけるUX(ユーザー体験)の核心であることを認識しました。



## 今後の課題、展望

今後は、提案した機能のプロトタイプを用いたユーザーテストを行い、文章の自然さや納得感を検証することが課題です。

また、イー・トライアド様の実務的な知見を取り入れ、実際の就職支援サービスへの実装可能性を検討します。学生が迷いなくキャリアを選択できる社会を目指し、テクノロジーの力で就活の「負」を解消するプラットフォームの実現へ向けて、さらなるブラッシュアップを図ります。